

---

# とある最強の創造世界

rubbin

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

とある最強の創造世界

### 【Nコード】

N7783Y

### 【作者名】

rubbin

### 【あらすじ】

学園都市の暗部に存在する「創造世界」

彼と様々な思惑が交差するとき物語は始まる

初めてのssなので緊張しつつタイプしていますw 厨二全開です  
お願いします！

## あらすじ

どうも初めまして！rubbinです！初めての小説なので、緊張しつつ少しくかきためていつています。

更新期間がとても短いと思いますが、のんびりかいて行きたいと思うのでお願いします！

ではあらすじを下に書いていきたいと思います。

ここは学園都市。「記憶術」や「暗記術」という名目上で超能力研究。「脳の開発」を行っている都市。

総人口は約230万人。その8割以上が学生がしめている都市である。

そんな都市には暗部と言われる学園都市の表側が普通の学生生活とするなら、その裏側に存在する血塗られた世界。

そんな世界にいるある一人の男の物語。

## あらすじ（後書き）

という事とで書いていきたいと思っています。  
亀更新かと思いますがお願いします！

## 序章 始まり。(前書き)

どうもrubbinです！  
今回から本編スタートです。

## 序章 始まり。

ここは学園都市。人口約230万人の埼玉、神奈川、そして東京の三分の一を円形にまたいでいる都市。

その都市では他とは違うことがある。まずは外部との科学の発展の違いだろう。

学園都市では飛行船が飛び、そして自動清掃ロボットが町の中を行き来している。

そしてもつとも違うのが「暗記術」やらなどの題目で「脳開発」をし「自分だけの現実」。

すなわちパーソナルリアリティを身につけることで能力を発現させている。

その能力者は6つの階級に区別されており  
レベル0からレベル5までに分かれている。

レベル0はほぼ能力が発現していない。

レベル1は少し能力が発現したほど。

レベル2はさしてレベル1とかわらないほどだ。

そしてレベル3は学校にいるようなエリート。

レベル4は軍隊にて利用できるほど。

そして一番上のレベル。レベル5は中隊と一人で戦えるほどである。

七人しかいないレベル5。その第六位「創造世界」

彼は今学園都市の学園長。アレイスタークロウリーと対話していた。  
それを他からみたらとてもいびつな空間だろう。

片方の人間は弱アルカリ性のビーカーの中に逆さまにうかんでおり、  
顔は大人にも子供にも。なんにでもとれる人間。

片方はすべてを飲み込むほどの黒色の髪。そして同様の瞳。髪はシ  
ョートカットというほどではなくまあ首に髪がかかるほど。肌は日  
本人の平均的ないろをしており、顔は美形より。  
身長は170cmと一般的である。

「やあ。よくきたね『創造世界』」

「よくきただと？よくいうよ。お前がここに呼んだんだろう。アレ  
イスター」

「ふむ。そうだったね。では手短に用件を話そう」

「なんだ？めんどくさいことは『アイテム』とかにまわしてもらい  
たいのだが」

「いや。今回は君に表の世界にいつてもらう」

「なんだと？俺は暗部の最深部と同じ機密コードだぞ。そんなんが  
表にでていいのか？」

「ああ。今回は幻想殺しの観察、そして行動を誘導をしてもらいた  
い。期限はない。それにその間にも暗部の仕事はやってもらう」

「あーわかったよ。だが俺にはIDがないぞ。どうするんだ？」

「それは私が発行しておこう。住居は第七学区のとある寮だ。それとIDは後で君の家に送ろう」

「わかった。詳しいことはまた後でいいな？」

「ああ。よろう。では頼むぞ『創造世界』」

「ああ。まかせろ」

そう『創造世界』はいうと虚空に消えた。その消えた後アレイスターはつぶやく。

「ふむ。これでプランがまた一步前進だ」

何もない空間にアレイスターの独り言がただ響いてた。



## 序章 始まり。(後書き)

では序章 始まり。 どうでしょうか？

感想、それと文字のミスを指摘していただければうれしいです。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7783y/>

---

とある最強の創造世界

2011年11月23日20時54分発行